



夢・出会い・感謝

京谷和幸 Kyoya Kazuyuki

最近、小学校や中学校へ講演に行く機会が多くなってきているのですが、そこでいつも思うことは、「夢を語れる子ども」が少なくなっているということ。親や先生たちは、「夢を持つことは大事だよ」「夢を持ちなさい」と子どもたちに伝えていると思う。確かに、夢を持つことは大事だと私自身も思っています。ただ、私は、夢を持つことは「楽しい」と子どもたちには伝えていきたいのです。

夢は「自由」。人はそれぞれ性格も考え方も価値観も違います。だから、夢の形や大きさだって違ってたって良いはずなのです。そしてその夢は、人と比べるものでもないし、人とやかかと言われるものでもない、自分だけのものなのです。私も小学校5年生のとき、「プロサッカー選手になりたい」という夢を持っていました。現在のようにJリーグはなく、プロになるためには海外に行くしかありませんでした。周りには「無理だ、現実を見ろ」と言われましたが、それでも自分だけの夢を追い続けたのです。辛く苦しいことがあっても、夢を実現している自分の姿をイメージすると、自然と「ウキウキ、ワクワク、ドキドキ」して、次の行動を起こさせてくれました。夢に向かって行動している自分が、どんどん変化していくのが本当に楽しかったのです。

夢に向かって行動していると、必ず「出会い」が訪れます。人との出会いはもちろん、耳から入ってくる音声、目に入ってくる映像、ある出来事、それらも全てが出会いです。出会いは、夢のイメージを大きく膨らませてくれるし、挫折や失敗をして立ち止まってしまったとき、背中を「ボン」と押してくれます。サッカーをやっていたときも、車椅子バスケットをやっていたときも、監督やチームメイト、家族や仲間たちの何気ない言葉で、私は何度も救わ

れたし、自分の進むべき道を再確認させてくれたこともありました。出会いは“チャンス”。出会いは、夢に向かっていて自分に、大きな「気づき」と「学び」を与えてくれるものです。この気づきと学びが、更なる行動を起こさせ、夢の実現に近づけてくれるのだと思います。

この出会い（チャンス）を増やすためにはどうしたら良いでしょうか？ それは、一つ一つの出会いに「感謝」の気持ちを持つということだと思います。相手に対して、「ありがとう」という言葉はもちろんですが、「笑顔」を加えなければ、本当の意味で相手に感謝は伝わらないと思います。相手に笑顔で「ありがとう」と言ったとき、相手はどうなっているのでしょうか？ きっと、相手も笑顔になっているはず。その笑顔が更なる出会いを運んでしてくれるのです。笑顔はプラスの氣を発します。プラスの氣を発した人には、必ずプラスの氣が寄ってくるものです。

夢は、年齢や性別、障害のあるなしにかかわらず、誰もが持っているもの。夢を持つことで、いろいろなことをイメージできるし、それに向かって行動を起こせば、多くの出会いが訪れるのです。この出会いが、夢の実現、目標達成に繋がっていくのですから、こんなに楽しいことはないですよね？ 私はこれからも自分の夢を持ち続け、その夢に向かって行動していきます。そして、これからも、多くの子どもたちに「夢を持つことの楽しさ」を伝えていきたいと思っています。胸を張って、自分の夢を語る子どもたちが増えることを願って…。

きょうや かずゆき

北海道出身。元Jリーガー・車椅子バスケットボール選手。1993年、交通事故により車椅子生活となる。リハビリの一環として車椅子バスケットボールを始め、日本代表として2000年シドニーから2012年ロンドンまで、4大会連続でパラリンピックに出場する。